

報告事項才

平成25年度第5回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について

平成25年度第5回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について、別紙のとおり報告します。

平成26年2月4日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成25年度第5回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について

平成26年2月4日
高等学校課

- 1 日時 平成26年1月10日（金） 午前10時～正午
- 2 場所 白兔会館
- 3 参加者 別紙のとおり（委員：9名）
- 4 議事 次代を担う生徒を育成するための魅力と活力にあふれる本県高等学校教育の在り方について
- 5 委員からの主な意見

答申の項目案の次の柱について、高校教育改革アンケートの結果や各学校の進路状況の資料を基にして審議を行った。

2 県人口や生徒数の減少に対応した高等学校の在り方

- (1) 生徒数減少の中で高い教育力を発揮できる高等学校教育のシステムづくり
- (2) 魅力と活力にあふれる高等学校教育の制度づくり

（人材育成の在り方）

- ・専門学科高校では就職者が多く、普通科高校では進学者が多いというのが、その学校の方向性だと思いが、専修学校等への進学者が多い学校は、生徒の志望に十分に答えられていないと捉えることができるのではないかと考える。
- ・これからの教育は、参加型の授業や探究的な学習へ切り替えていくことが必要になってくると考える。
- ・生徒の主体的に学ぶ意欲や考え続けることのできる意思をいかに育てて行くかが大切。
- ・高校では、生徒が自分で考え、自分で行動し、自分で確認するような力をしっかりと付けさせるとともに、自分の使命を自覚させるような教育を、教科の中ではなく学校全体で取り組んでいくようなシステム作りが必要。

（生徒の進路と高校の学科）

- ・中学生が希望する就職先と実際に進学する高校との関連性を考えていく必要がある。
- ・県内に希望する就職先があるかどうかで、学科に関連した就職先の状況が変わってくる。例えば、中部地区では工業系の就職先は多いが、家庭や情報系の就職先は比較的少ない。
- ・高校で学んだことと就職先が一致していない状況であるならば、一般教養とか基礎学力を底上げすることが進路実現に役に立つのではないかと考える。
- ・中学校時代から、高校卒業後を見据えた進路指導や、キャリア教育などを通じた多様な職業選択に関する情報提供を行っていくことが必要。

（生徒減への対応）

- ・地域で分けて考えないで、今のままの学科等で学校を維持しようとするならば、高校の在り方を根本から考えていく必要がある。
- ・定員の充足率が低い中山間地域の学校は、通学に時間を要するなどのアクセシビリティが悪いことが影響しているのではないかと考える。

(総合学科の在り方)

- ・総合学科高校では、大学等への進学率も低く、また、職業意識も十分に育っていないという状況がある。今後、このままの状態を維持していくのか、新たな意識で変えていくのか考えていくことが必要。
- ・高校もいろいろ努力をされており、中学校の生徒や保護者にもその情報提供はしているが、十分に認識されていない現状がある。
- ・総合学科は多くの教科が設定されているので、教員数、施設、教員の労力等多くの課題があり、また、選択教科を多くしても生徒に選ぶ力があるかどうかも疑問。

(学校の特色づくり)

- ・学校の在り方を考えるときに、地域や地域産業の活性化方策等と併せて検討していくことが必要。

鳥取県教育審議会学校等教育分科会 出席者一覧

区 分	氏 名	職 名	備考
鳥取県教育審議会 学校等教育分科会 委員	池 内 勝 彦	鳥取県高等学校PTA連合会長	
	石 操	日吉津村長	欠席
	門 脇 由 己	米子北高等学校長	
	栢 木 隆 志	米子市立福米中学校長	
	小 枝 達 也	鳥取大学地域学部教授、附属小学校長	
	高 橋 千 枝	鳥取大学地域学部地域教育学科准教授	欠席
	長 尾 志 保	鳥取県PTA協議会ブロック理事	
	松 本 清 治	県立倉吉西高等学校長	
	丸 山 智 子	県立倉吉養護学校長	欠席
	森 田 清 子	北栄町北条こども園長	欠席
	矢 部 敏 昭	鳥取大学副学長	
	山 口 朝 子	鳥取市教育委員	
	山 本 正 人	鳥取市立若葉台小学校長	